

達磨よ、遊ぼう

2008(平成20)年3月8日鑑賞<ホクテンザ1>

★★★



監督=パク・チョルグァン/出演=チョン・ジニョン/パク・シニャン/キム・インムン/イム・ヒョンギョン/〈修行僧〉イ・ウォンジョン/イ・ムンシク/リュ・スンス/〈ヤクザ軍団〉パク・サンミョン/カン・ソンジン/キム・スロ/ホン・ギョンイン/キム・インムン (エスピーオー配給/2001年韓国映画/96分)

特集

熱狂的ブームの去った今こそ真価を問う！

……達磨とは僧侶のこと。寺院に逃げ込んできた5人のヤクザが、その滞在の許否をめぐる5人の修行僧たちと対立！ 残るか、それとも出ていくか、勝負は何によって……？ 三千拜、花札、素潜りなどの種目の設定と、5人+5人のキャラは実に面白い。そんないかにも韓国的なドタバタコメディは、頭をカラッポにして楽しむのに最適！

企画の新鮮さは、今もなお

従来から気になっていた『達磨』シリーズ(?)を、「韓流セレクション」のチョン・ジニョン特集として2本まとめて観ることに。『達磨よ、遊ぼう』が01年、『達磨よ、ソウルに行こう』が04年だから、既に古い作品だが、狙いと新鮮さは全然色あせておらず、当時の400万人を動員した大ヒットもなるほどと理解。あまり難しく考えず、頭をカラッポにして楽しむには実に最適！

僧侶軍団 vs. ヤクザ軍団

達磨とは韓国では僧侶のこと。山奥のある寺院で修行しているチョンミョン(チョン・ジニョン)をリーダーとする5人の修行僧たちのもとへ、ある日ヤクザの抗争から逃れてきたジェギユ(パク・シニャン)を兄貴分とする5人のヤクザが逃げこんできたから大変。住職の老僧(キム・インムン)は大きな心でヤクザの滞在を許したが、ジェギユたちの勝手気まま、傍若無人な振る舞いに我慢できないチョンミョンたちが、「早く出ていけ！」と追ったところから物語が始まることに。



© 2001KM Culture, All Rights Reserved.

🎬居直り？ 退去？ それは勝負によって！

その物語は単純で、ある勝負をすることによってケリをつけようというもの。そこで問題は勝負の種目だが、チョンミョンの提案は三千拝、つまり1回ごとにひざまずき、頭を下げて仏を拝む行為を三千回続けるというものだ。ヤクザも体力勝負だから日頃から鍛えていると自信をもっているジェギユたちは、そんな種目は不利だと逃げることなく堂々と受けて立ったが、百回も経たないところで(?)彼我の力量の差は歴然！ これによってあっけなく勝負がついたため、ヤクザ軍団は約束どおり寺院を出ていくのかなと思ったが……？

🎬最初の約束はどこに……？

約束を守ることにこだわる弁護士の私と同じように、それなりの責任者になっている男なら、ヤクザでも約束は守るはずと思っていたが、勝負がついた後になってジェギユが、三千拝の種目は僧侶に有利だから勝負は無効と無茶な主張をしたからビックリ。

そしてジェギユが次に提案した種目は、何と花札。こちらはヤクザが訓練を積んでいるからヤクザの勝ちとなり、一勝一敗。そこで最後の勝負は元海兵隊員同士の素潜り勝負となったが、ここでは死にかけても水の中から出てこないヤクザの根性が勝り、

ヤクザの勝ち！すると今度は、チョンミョンが「勝負は五番勝負が常識だ」と堂々と主張したから、こりゃハチャメチャ。

負けず嫌いで自己主張の強い韓国人は、声が大きいばかりではなく、勝負もこんなに潔くないの……？ そう言ってしまうと『達磨』シリーズの面白さが半減してしまうので、それは言っこなしとして、その後の勝負を楽しまなければ……。

5人のキャラが面白いのが大ヒットの原因

韓流通は、俳優の顔と名前をよく覚えているから、映画の中で誰がどんな役をしているのかよく知っているが、私にはカタカナばかりの韓国人の名前は覚えにくいから、この映画のように5人+5人という多くの登場人物が出ると、どの俳優がどの役をやっているのか正確に理解し説明するのが難しくなってしまう。したがって、その正確性はともかく、5人+5人のキャラの面白さと濃さは韓国映画特有の面白いもの。

僧侶側は、①薪割り専門(?)の巨漢で力持ちのヒョンガク(イ・ウォンジョン)、②ヤクザ軍団の海兵隊出身のプルゴム(パク・サンミョン)と張り合う海兵隊出身のテボン(イ・ムンシク)、③無言の業を続けていたのに「369ゲーム」(ちなみにこの競技のルールは私にはよくわからない)の勝負でそれを破ってしまい、以降バカみたいに饒舌になるミョンチョン(リュ・スンズ)など、面白いキャラばかり。

他方ヤクザ軍団も、①口は達者だが三千拝ですぐにダウンしてしまったワングラ(キム・スロ)、②素潜りで意外な実力を発揮した、元海兵隊員のプルゴム、③尼僧に恋をしてしまい、最後には無心寺に残り修行僧となるナルチ(カン・ソンジン)など多士済々。

紅一点は……？

もっとも、男ばかりのコメディではちょっとかわいそうと考えた(?)パク・チョルグアン監督は、紅一点として頭をツルツルに剃った尼僧ヨンファ(イム・ヒョンギョン)を登場させた。彼女が定期的にお寺を訪れている理由は映画を観てのお楽しみだが、修行僧はともかく、1カ月も男ばかりの生活を続けているヤクザ軍団から1人くらい彼女に恋する男が出現してもおかしくはないはず。抗争体制下(?)そんなヤワなことは許されないというのが本来のヤクザ軍団の掟だろうが、さて、このコメディ映画ではそれをどのように処理……？

■ 待望の日がやってきたが……

こんな真剣(?)勝負をくり返している、良くも悪くもお互いの本性が見えてくるもの。すると立場の違い、価値観の相違はあっても、互いに心の通じ合う面も……? ジェギユがこの寺院に居座っているのは、嫌味をするためではなく、オヤジ(組長)や兄貴(上司)からの指示をここで待たなければならないため。そして、遂に待望のその日がやってきた。

オヤジの裏切り者が運転手だったという報告をもって兄貴がやってきたため、これにて一件落着。となったのでは何のハイライトもない凡庸な映画になってしまうから、ここからがこの映画の真骨頂。実は悪者はこの兄貴だったというオチをつけて、ジェギユたちヤクザ5人組とチョンミョンたち僧侶5人組が力を合わせて大活躍するという派手なアクションシーンがハイライトだから、それを楽しまなくては。



DVD 発売中、価格：¥5,040(税込)、販売元：エスピーオー

■ この寺院はどこに……? 住職の出題の解答は……?

ちなみに、この寺院は金海市郊外にある銀河寺(ウナサ)とのこと。またこの寺院は釜山からバスで40分くらいのところにあるらしい。血気盛んな修行僧のリーダー、チョンミョンと違い、既に覚りの境地に入っている老住職が両チームに出した問題の解答を考えながら、1度このお寺を訪れてみては……?

ちなみにその問題とは、「底の割れた甕に水を満たせ」というもの。もちろん割れたところをふさぐのはダメという条件付きだ。映画の中では、なぜか頭のいいはずの僧侶軍団ではなく頭の悪いはずのヤクザ軍団が見事にその解答を出していたから、とんちやクイズに自信のあるあなたなら、きっと正解がわかるはず……?

2008(平成20)年3月10日記